

営農ウィークリーNEWS

向島小学校でのお茶の取り組み紹介

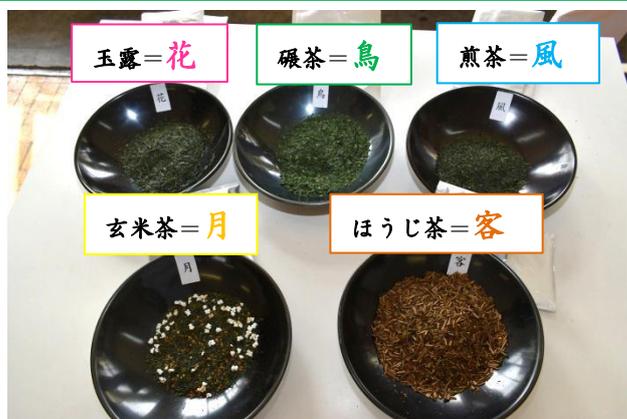
～茶香服(ちゃかぶき)～

向島小学校では、地域産業を知る総合学習の一環として毎年4年生を対象にJA京都中央向島茶業部会員の方々により茶教室が開かれます。今年度は既に茶摘み・製茶作業(5・6月)や抹茶点て(12月)を体験しましたが2021年2月24日(水)には「茶香服」を行いました。

茶香服とは…数種類用意される茶を飲み比べ、種類を当てて合計得点を競うものです。



今回行われた茶香服は、本来の茶香服とは少し異なり、小学生に興味を持ってもらえるように「玉露(ぎょくろ)・碾茶(てんちゃ)・煎茶(せんちゃ)・玄米茶・ほうじ茶」それぞれに「花・鳥・風・月・客」の名前を付けて5種類の飲み比べを行いました。



↑5種類の茶の葉を並べた様子。これらを飲み比べます。



5種類のうち1種類の茶を紙コップに注ぐ様子



茶を飲み種類を予想する様子



札箱を開き答え合わせする様子



それぞれの正解数の合計得点を記入する様子



↑向島茶業部会員の中西さんが小学生に茶香服の説明をする様子

小学生たちは、1種類ずつ出てくる試料茶の形状・色・香り・味でどのお茶なのかを予想します。

「花・鳥・風・月・客」の札が1人につき各1枚ずつ配布されます。自分が予想する茶の札を順番に札箱に入れていきます。

5種類全て飲み終えたら札箱を開き答え合わせします。これを何度か繰り返し合計得点を競います。

茶香服を体験した小学生の感想

「色々なお茶を飲んで興味を持った!」「今まで水ばかり飲んでいてがお茶が美味しかったのでこれから飲んでいこうと思った!」「お茶を勉強することで地域の特産について知ることができました!」等が出ていました!

TAC information

茶香服(ちゃかぶき)とは!



茶香服は、中国(宋)で始まったとされています。日本でも南北朝時代から室町時代にかけて、お茶を飲む習慣のあった貴族や武士たちの遊びとして流行しました。

栄西禅師から明恵上人に受け継がれた京都の柵尾(とがのお)一帯のお茶を「本茶」としていたため「本茶」か他産地の「非茶」かを飲み分けることが始まりです。当時は、茶香服とは言わずに闘茶(とうちゃ)と言いました。

本来の茶香服は、玉露二種・煎茶三種を用い、それぞれの茶に「花・鳥・風・月・客」の名前をつけて五種類飲み、これを五回繰り返してその合計点数を競います。満点(5点)を「皆点(かいてん)」、0点は「ちょっと」と、ユニークな言い方をします。現在では、誰もが参加できる風流な品質の飲み当てゲームになっています。

みのり姫の ふれあい マルシェ

2021.3.18(木)
10時30分から14時まで

※ 小雨決行，売切れ次第終了となります ※

★JA京都中央管内の新鮮な農産物を販売します★

（令和2年12月17日）
前回開催時



★開催場所★ JA京都中央
神足支店 東側駐車場（ATM横）

千円以上お買上の先着100名様に
おしゃれで便利な
エコバックプレゼント



お問い合わせは下記までご連絡ください

JA京都中央
☎ 075-955-8575

✉ keizai@kyo-ja.com

主催：JA京都中央 共催：JA京都中央 営農者会



↑公式HP



↑公式LINE



※新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて開催を中止する場合がございます。予めご了承下さい。